



校長室だより

2023年3月24日
校長 小崎 功二



感謝

私事ではございますが、今月末をもちまして、定年退職のため郡山小学校を去ります。今、残り僅かな日々の中で、校長としてのこの2年間を振り返っています。

私は新任からこれまで37年間、様々な学校や公所に勤め、ある時は担任学級や学年の子供たちのために、ある時は行政の立場から市民のために、ある時は学校全体の子供たちのために、その都度、その場所で、それぞれの立場で、精一杯務めて参りました。その最後の2年間を過ごすことになったのが、この郡山小学校でした。

着任当初から、子供たちの笑顔あふれる学校を目指し、お互いに思いやりを持って接することの大切さを訴えて参りました。そのために、特に、私自身が手本とならなければならないことを強く自覚しながらの日々でした。努力はしたつもりでも、本当に思いやりを持って児童や職員、保護者や地域の方々とは接することができたのか、振り返れば、反省すべきことも多々ありました。それでも、学校のスローガンである「笑顔いっぱい」という理想に近付くことができたのは、郡山小学校の子供たちが持っている素直さと優しさ、保護者や地域の皆様からの温かいご支援ご協力、職員の努力などの賜物だと感じています。

指導の重点としては、特に「家庭との連携」「地域と共に歩む学校」の推進を掲げて参りました。

その一環として、毎月の学校だよりとは別に、毎週この「校長室だより」を発行し、校長の考えや学校の様子などをお伝えしながら、そこに保護者や地域の皆様からのご意見等をいただくための欄を設けたり、学校ホームページとリンクさせるなど、学校からの情報発信を、量と質を高めながら双方向性を持ったものに改善することに努めました。「校長室だより」は今回の最終号で第88号となり、毎回様々な話題を発信して参りましたが、話題を変えながらも一貫してお伝えしたかったのは、私が教育者として大切に続けてきた「愛・自由・個人の尊厳」という理念です。学校を代表する立場や教育者として責任を持つての発信ではありましたが、個人の私見に対して、貴重なお時間を割いて毎回ご一読いただいた方々に、改めて感謝申し上げます。

地域と学校とのつながりは郡山小学校の命綱です。そのつながりを維持し、さらに発展させることを、常に大切に考えて参りました。郡山中学校区4校による学校運営協議会の立ち上げに際しては、4校と各PTA、地域諸団体等との調整を重ね、連携を密にしながら、令和4年度からの実施を実現することができました。これまでも「郡山中学校区健全育成連絡協議会」「郡山地区防犯協会」「東郡山コミュニティ市民委員会」などの活動をはじめとして、一丸となって子供たちの成長を見守ってきた郡山中学校区ですので、今後さらに充実した取組となることでしょう。郡山小学校にとって地域との強いつながりの一つであり、学校の応援団である「おやじの会」による活動にも、日々支えていただきました。「土曜プログラム」、農業や防災等の各種体験学習なども含めて、地域に根ざし地域社会に開かれた教育活動の火を絶やさぬよう、関係機関や地域住民との連携を図り、可能な方法を模索しながら努力して参りました。

登下校時の安全のための横断歩道新設や校門前への郵便ポストの設置等、地域や保護者からお寄せ

※裏面へ続く

いただいた声を受け、学校からも各方面に働きかけたことで実現したこともありました。また、児童数増加に伴う令和5年度からの教室不足への対応に際しては、当初、特別教室(図工室)を転用するという方針を示されましたが、子供たちのための環境整備を優先させたいという思いを訴え続け、令和5年度内早期の完成を目指し、4教室(内2教室分を図書室として利用予定)と男女別トイレを備えた仮設校舎の建設が決まりました。これらのことは全て、地域や保護者の皆様の後押しによって、皆様の思いが実った結果です。

学校を挙げて取り組んできた食育も、地域の皆様に支えられた活動の一つです。自校調理の利点を生かした給食指導を中心とした食育は本校の特徴であり、地域食材を取り入れ、地域講師を招いた児童の農業体験活動とも関連付けた学習に力を注ぎました。仙台市小学校教育研究会学校給食部会の副会長として全市的な研究活動に携わったことや、仙台市単独調理校物資選定委員会の委員長として、給食行政の中で、児童のための安全安心な給食提供のための重要な役割を担うことができたことも、郡山小学校で食育を進める上で有意義なものでした。

この2年間は、新型コロナウイルス感染症対策への取組を余儀なくされ、様々な制約の中での学校生活や学習活動になりましたが、子供たちにとっては掛け替えのない一瞬一瞬であることを忘れず、子供たちのためを一番に考えて、日々の教育活動にあたって参りました。前述の通り地域とのつながりに支えられ、地域の皆様や保護者の皆様の多大なるご協力と、教職員の努力、そして何よりも子供たちの頑張りによって、日々の学校生活は、制約の中でも活気を失うことなく、有意義なものとなりました。

常に児童と共にあり、温かく見守り、児童にとって身近で心から信頼できる存在であろうと努力したことも、校長として力を入れてきたことです。毎朝、児童の登校時間帯に合わせて学区内を巡回しながら児童に声を掛け、挨拶を交わす喜び。毎日児童と共に、準備から食事、片付けまで一緒に過ごした、給食の楽しいひととき。毎日児童と共に汗をかき、励ましあって働いた清掃活動。休み時間に多くの児童が校長室を訪れ、水槽の生き物を観察したり、一緒に遊んだり話し相手になったり、時には相談を受けたりしたこと等、児童との数々の触れ合いや思い出が蘇ってきます。

今、郡山小学校の子供たちとの出会いに、感謝の気持ちでいっぱいです。大好きな郡山小学校の子供たちに囲まれて37年間の教員生活を締めくくることができることは、私にとって、大きな喜びです。この郡山小学校での2年間は、子供たちはもちろん、保護者や地域の皆様、教職員に恵まれ、教育という仕事に携わってきた私のこれまでの人生の中で、最も充実したすばらしい日々でした。

郡山小学校に辿り着くまでの私の教員人生は、特に後半は困難と苦悩の連続で、自暴自棄になることさえありました。しかし、この郡山小学校で最後の2年間を過ごしたことで、全てがここに繋がっていて、その全てに意味があったのだと思えるようになりました。

4月からは、第二の人生が始まります。教育職定年退職後も、市民センター勤務を皮切りに、命の続く限り、社会のために、そして自分自身のために、立ち止まることなく人生を歩んで参ります。

今後の残された人生の中でも、多くの経験や出会いがあることでしょうが、それでも、おそらく、この2年間は最高のものだったことは、変わることはないでしょう。

校長室に飾った絵画「新春蔵王」(父「洋画家 小崎隆雄」作)は、仙台市への寄付採納により仙台市所有となり、郡山小学校への配当が決定いたしました。これからも折に触れてご覧ください。

2年間、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。